



楓の森アップデート2



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第5号
令和6年6月3日(月)
文責:校長 佐藤 政臣

○校訓 「志高く 道を拓く」

○学校教育目標 「夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成」

「昼の読書タイム」スタート (小中一貫教育の取組)

ホームページでも紹介しましたが、「読書タイム」の取組がスタートしました。昨年度は、朝の時間に行っていましたが、本年度は、木曜日の昼休み後(13:20~13:35)、月に1~2回行うことになりました。

この取組は、小中一貫教育の取組です。小学校1~3年生は、ボランティアによる読み聞かせを、小学校4年生~中学校3年生は、自分が読みたい本を読むという取組です。

初回は、1~2年生で読み聞かせがあり、3年生以上は、静かに読書することができました。

本好きの子どもは、「語彙力・読解力等の国語力が向上する」といわれています。ご家庭でも読書タイムを設けて家族で本を読む時間(10分でもいいですから)を設定されたいかがでしょうか。

読み聞かせボランティアの皆様、お忙しいところにご来校いただきましてありがとうございます。現在、読み聞かせボランティアを募集しております。木曜日午後の時間帯で、お忙しいとは存じますが、低学年の子どもたちは、楽しみにしておりますので、よろしく願いいたします。

ボランティアによる読み聞かせ



一人読書



「読書好きになる」ために

読書に関しては、「読書好きになる」ためのきっかけづくりが必要です。

ベネッセ教育研究所が全校の高校生から社会人の3,130人を対象に読書に関する調査をしました。

Q1 あなたは、読書が好きですか

「とても好き(16%)」、「好き(23%)」、「どちらかという好き(24%)」、「どちらともいえない(15%)」、「どちらかという好きではない(10%)」、「好きではない(7%)」、「まったく好きではない(5%)」

『とても好き』『好き』『どちらかという好き』と答えた人に聞きます。

Q2 読書が好きになったきっかけは何ですか。

○1位(子どもの頃の読み聞かせ)

○2位(身近な人が本好きだったから)

このように、読書好きになるには、「子どもの頃の読み聞かせ」が有効であるといえます。

また、本調査では、「読書量と語彙力」の相関関係についても示されており、読書することにより、知っている言葉の数を増やすことができるという結果がでたのです。では、なぜ言葉の数を増やす必要があるのでしょうか。

例えば、「感動する」という感情ひとつとっても、「胸がいっぱいになる」「言葉が出ないほど驚いた」「心にしみいった」などいろいろな表現があります。語彙力がある、つまりいろいろな言葉を知っていると、よりピッタリの言葉で相手に自分の思いを伝えることができるのです。これからの子どもたちが身に付けるべき資質・能力に「コミュニケーション能力」があります。相手と豊かなコミュニケーションを行うには、「一定の語彙力が必要になる」と言えるでしょう。

さらに、読書についてですが、「何歳までに何千冊の本を読ませなさい」という話を耳にしたことがある保護者の方もいらっしゃると思います。本を読む量は個人差があるので、多くの子どもたちができる方法としては、「同じ本を何回も読む」のがいいと思います。そうすることで、その本の内容の理解や文字の判別、脳の発達に非常にプラスになるといわれています。

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>

楓の森小 HP

